



アップグレードの計画

- マニュアルの変更履歴, on page 1
- アップグレードと移行の概要 (1 ページ)
- アップグレード方法 (2 ページ)
- 現在のシステムの記録を取得する (3 ページ)
- サポートされているアップグレードおよび移行パス (4 ページ)
- アップグレードツールを選択します (7 ページ)
- 必須 COP ファイル (8 ページ)
- 要件および制約事項 (11 ページ)
- サポート文書 (31 ページ)

マニュアルの変更履歴

Table 1:

日付 (Date)	リビジョン
2021 年 9 月 7 日	<p>アップグレードシナリオで実行する必要がないため、それぞれの章から次のセクションを削除しました。</p> <ul style="list-style-type: none">• アップグレード前のタスク：TFTP サービスの非アクティブ化• アップグレード後のタスク：TFTP サービスの再起動

アップグレードと移行の概要

このマニュアルの手順では、Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service を以前のバージョンから現在のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

このマニュアルの手順は、すべてのアップグレードおよび移行パスの開始点として使用してください。

アップグレード方法

次の表では、アップグレードを完了するために使用できる、Unified Communications Manager、IM and Presence Service、およびアップグレードツールを使用して実行できるアップグレードのタイプについて説明します。

アップグレードタイプ	説明	アップグレードツール
直接標準アップグレード	<p>標準アップグレードは直接アップグレードであり、基盤となるオペレーティングシステムではなく、アプリケーションソフトウェアをアップグレードする必要があります。これは通常、アップグレードの最も単純な形式であり、通常は同じメジャーマイナーリリースカテゴリ内からのアップグレードに適用されます。この場合、OSは両方のリリースで同じです。</p> <p>元のリリース 12.5 以降の場合、直接の標準アップグレードによって、期間が大幅に改善され、手順が簡素化され、サービスへの影響が軽減されます。</p> <p>例：12.5(1) から 12.5(1)SU1 へのアップグレード。</p> <p>(注) アップグレード前のリリースが 12.5(1) 以降の標準アップグレードでは、簡素化されたクラスタ規模のアップグレードを使用してクラスタ全体をアップグレードすることができます。</p>	<p>標準アップグレードを実行する際に、次のツールを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unified OS 管理者 • CLI • PCD アップグレードタスク
直接更新アップグレード	<p>直接更新アップグレードは直接アップグレードの一種で、アプリケーションソフトウェアと、基盤となるオペレーティングシステムソフトウェアの両方をアップグレードする必要があります。多くの場合に、OS が異なる 2 つのリリース (メジャー/マイナー) 間でアップグレードを行う場合に使用します。</p> <p>例：11.5(1) または 12.0(1) から 12.5(1) へのアップグレード</p>	<p>更新アップグレードプロセスを実行する際に、次のツールを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unified OS 管理者 • CLI • PCD アップグレードタスク

アップグレードタイプ	説明	アップグレードツール
直接移行	<p>直接の移行には、直接のアップグレードだけでは対処できない複数の要因が存在する場合の「再配置」が含まれます。直接移行は、次の場合に使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サイトの移動 • アップグレードでインフラストラクチャハードウェアおよびプラットフォームの変更が必要とされる場合。 例：ESXi 5.5 および Cisco UCS M3 世代ハードウェア上の Unified CM 10.5(x) から ESXi 7.0 および Cisco UCS M5 世代ハードウェア上の 12.5(x) へのアップグレード。 • ESXi のアップグレードおよび/または Unified CM 仮想マシン構成の変更 • Unified CM アドレス/ホスト名の変更 • アップグレードで、元のリリースに存在しない直接アップグレードパスが必要になる場合。 例：ESXi 上の Unified CM 8.5(1) から ESXi 上の 12.5(x) へのアップグレード（直接アップグレードパスが存在しないため移行が必須）。 • V2V（Virtual to Virtual）の移行では、直接アップグレードパスがある場合でも、期間、サービスへの影響、短時間の停止時間など、アップグレードパスの複雑さの要因を軽減するために、直接移行が推奨されます。 	<p>移行を完了するには、次のツールを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PCD の移行 • データインポートを使用した新規インストール
レガシーリリースからの移行	<p>レガシーリリースは、現在のリリースに直接アップグレードまたは直接移行パスが存在しない、古いリリースです。唯一のオプションは、PCD の移行をサポートする以降のリリースへの直接アップグレードであり、その後に現在のリリースへの PCD 移行が行われます。</p> <p>例：6.1(5) より前の Unified CM または 8.5(4) より前の Cisco Unified IM and Presence からのアップグレード。</p>	<p>詳細については、レガシーリリースからのアップグレードを参照してください。</p>

現在のシステムの記録を取得する

アップグレードを開始する前に、現在のシステム設定内のバージョンの記録を取得します。現在のシステムで使用されているバージョンがわかったら、アップグレードの計画を開始できます。次のような機能があります。

- Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service のアップグレード前のバージョン
- 現在のハードウェア バージョン
- VMware バージョン管理



(注) VMware は、Unified CM 8.x および 9.x でオプションの導入として導入されました。リリース 4.x 以降では、VMware が必須になりました。

アップグレード前アップグレード準備状況 COP ファイルを実行することによって、バージョンを取得できます。詳細については、[アップグレード準備 COP ファイルの実行 \(アップグレード前\)](#) を参照してください。

サポートされているアップグレードおよび移行パス

次の表に、Unified Communications Manager と IM and Presence Service の 12.5 (x) リリースにアップグレードするためにサポートされているアップグレードパスを示します。



(注) 特に指定がない限り、各リリースカテゴリにはそのカテゴリ内の SU リリースが含まれています。たとえば、12.5 (x) には、12.5 (1) SU リリースが含まれています。さらに、10.5 (x) や 8.6 (5) のようなリリースには、これらのカテゴリ内の SU リリースも含まれています。

表 2: Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service のアップグレードパス

送信元	送信先	サポートされるアップグレード方法	バージョンスイッチング* (送信元から宛先、またはその逆)
Cisco Unified Communications Manager のアップグレードパス			
6.1 (5) より前のすべての Unified CM リリース	12.5(x)	レガシーアップグレード。直接アップグレードや直接移行はサポートされません。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 6.1 (5)、7.1 (3) または 7.1 (5) へのアップグレード: レガシーアップグレードに関する情報を参照してください。 2. PCD Migration ** to 12.5 (x) 	バージョンスイッチングはサポートされていません

送信元	送信先	サポートされるアップグレード方法	バージョンスイッチング* (送信元から宛先、またはその逆)
Unified CM 6.1 (5)、7.1 (3)、7.1 (5)、8.x、9.x、10.0 (x)	12.5(x)	PCD 移行**	バージョンの切り替えはサポートされません
Unified CM 10.5 (x)、7.x、12.0 (x)	12.5(x)	Unified OS の管理によるアップグレード (直接更新) CLI によるアップグレード (直接更新) PCD アップグレード (直接更新) ** PCD 移行** データインポートを使用して、接続先が 12.5(1)SU5 以降にのみフレッシュインストールします。 (注) <ul style="list-style-type: none"> ソースリリースが 10.5(x) で、接続先のリリースが 12.5(1) ~ 12.5(1)SU5 の場合、PCD アップグレードタスクがサポートされます。 ソースリリースが 10.5(x) で、接続先のリリースが 12.5(1)SU6 以降の場合、PCD アップグレードタスクはサポートされません。 	バージョンスイッチングはアップグレードでサポートされていますが、移行ではサポートされていません
Unified CM 12.5(x)	12.5 (年)	Unified OS の管理によるアップグレード (直接標準) CLI によるアップグレード (直接標準) PCD アップグレード (直接標準) ** データインポートを使用して、接続先が 12.5(1)SU5 以降にのみフレッシュインストールします。	バージョンの切り替えは、アップグレードではサポートされますが、移行ではサポートされません。
IM and Presence Service のアップグレードパス			

送信元	送信先	サポートされるアップグレード方法	バージョンスイッチング* (送信元から宛先、またはその逆)
Cisco Unified Presence 8.0(x)	IM and Presence 12.5(x)	直接アップグレードまたは移行はサポートされません。次の手順を実行します。 1. 8.5 (4) への直接アップグレード: レガシーアップグレードに関する情報を参照してください。 2. PCD Migration ** 8.5 (4) から 12.5 (x)	バージョンの切り替えはサポートされません
Cisco Unified Presence 8.5 (4)、8.6 (3)、8.6 (4)、および 8.6 (5)、 IM and Presence 9.x、10.0(x)	IM and Presence 12.5(x)	PCD 移行**	バージョンの切り替えはサポートされません
IM and Presence 10.5(x)、11.x、または 12.0(x)	12.5(x)	Unified OS の管理によるアップグレード (直接更新) CLI によるアップグレード (直接更新) PCD アップグレード (直接更新) ** PCD 移行** データインポートを使用して、接続先が 12.5(1)SU5 以降にのみフレッシュインストールします。	バージョンスイッチングはアップグレードでサポートされていますが、移行ではサポートされていません。
IM and Presence 12.5(x)	12.5 (年)	Unified OS の管理によるアップグレード (直接標準) CLI によるアップグレード (直接標準) PCD アップグレード (直接標準) ** データインポートを使用して、接続先が 12.5(1)SU5 以降にのみフレッシュインストールします。	アップグレードではバージョンの切り替えがサポートされますが、移行ではサポートされません。

*バージョン切り替えとは、新しいバージョンを非アクティブバージョンとしてインストールし、必要に応じて新しいバージョンと古いバージョンを切り替えることができる機能です。こ

の機能はほとんどの直接アップグレードでサポートされますが、移行ではサポートされません。

** PCD のアップグレードと移行: すべての PCD タスクに Cisco Prime Collaboration 導入リリース 12.6 以降を使用します。直接移行の場合、PCD リリース 14 以降はソースリリース 10.5 以降をサポートし、PCD リリース 12.6 はソースリリース 10.5 以降のバージョンをサポートします。

アップグレードツールを選択します

選択可能な複数のメカニズムがある場合に使用するアップグレードツールを決定するのに役立つ情報については、次の表を参照してください。



- (注) レガシーアップグレードについては [レガシーリリースからのアップグレード](#)、を参照してください。これは、6.1 (5) より前のバージョンの Cisco Unified Communications Manager、または Cisco Unified Presence 8.0 (x) からアップグレードする場合に必要です。

表 3: アップグレード方法の選択

アップグレード方法	サポート	このメソッドを使用するタイミング	アップグレードまたは移行を完了する方法
統合された OS 管理または CLI のアップグレード	Cisco Unified OS 管理 GUI または CLI を使用した直接アップグレード (標準または更新)。	<p>このツールは次の場合に考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスタ全体のアップグレードを簡素化するため アプリケーションソフトウェアを変更するだけで、ハードウェアまたは VMware は更新されません。 直接アップグレードパスが存在します。 Unified CM および IM and Presence Service のみをアップグレードする場合。その他の UC アプリケーションはありません。 単一の Unified CM クラスタと単一の IM and Presence サブクラスタをアップグレードしています。 <p>(注) CLI のアップグレードでは、Unified OS 管理者のアップグレードと同じサポートが提供されますが、別のインターフェイスからもサポートされます。</p>	アップグレード作業に進みます。

アップグレード方法	サポート	このメソッドを使用するタイミング	アップグレードまたは移行を完了する方法
PCD のアップグレード	Cisco Prime Collaboration 導入のアップグレードタスクを使用して、直接アップグレード(標準または更新)を処理します。	このツールは、次の場合に考慮してください。 <ul style="list-style-type: none"> 複数のクラスタをアップグレードすることができます。 クラスタに多数のノードがあるため、アップグレードのオーケストレーションを行って予定を早める必要がある場合。 Cisco Unity Connection や Cisco Unified Contact Center Express などの他のアプリケーションをアップグレードする必要があります。 	リリースから 10.x 以降 <ol style="list-style-type: none"> アップグレード準備 COP ファイルの実行 (アップグレード前)。 アップグレードまたは移行タスクを実行するには、『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』を参照してください。 アップグレード準備 COP ファイルの実行 (アップグレード後)
PCD 移行	Cisco Prime Collaboration Deployment による移行を処理します。	次の場合にこのツールを検討してください。 <ul style="list-style-type: none"> VMware を使用していない以前のリリースからアップグレードしようとしています。 ソースのリリースは、VMware をサポートしていないため、古いリリースです。 アプリケーションバージョンのアップグレードに加えて、ESXi の更新も行う必要があります。 インフラストラクチャのハードウェアとプラットフォームを変更しようとしています。 ソースリリースは以前の 11.5 バージョンから直接アップグレードされており、ディスク容量の問題が発生しています。使用可能なディスク領域を最大化するために、最新のスタックに再インストールする必要がある場合があります。 一時的に重複する Vm とそのハードウェアが必要なインフラストラクチャを使用できます。 	(注) リリースのリリースが 9.x よりも前の場合、アップグレード準備状況の COP ファイルは機能しません。付録では、手動でのアップグレード前のタスクとアップグレード後のタスクを完了する必要があります。

必須 COP ファイル

次の表は、COP ファイルが必要なアップグレードパスを示しています。Cisco Unified OS 管理インターフェイスを使用してアップグレードを開始する前、または Prime Collaboration Deployment

(PCD) ツールを使用してアップグレードまたは移行を開始する前に、各ノードに COP ファイルをインストールする必要があります。PCDを使用している場合は、アップグレードを開始する前に COP ファイルの一括インストールを実行できます。

Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service の COP ファイルは、<https://software.cisco.com/download/home/268439621> からダウンロードできます。アップグレードの宛先バージョンを選択した後、[Unified Communications Manager ユーティリティ (Unified Communications Manager Utilities)] を選択して、COP ファイルのリストを表示します。



- (注) アップグレードの成功を最大化するためにアップグレード前にアップグレード準備の COP ファイルを実行する必要があります。この COP ファイルを実行しない場合、ソースリリースで検出されない問題が原因でアップグレードが失敗するリスクが高まります。Cisco TAC では、有効なテクニカルサポートを提供するために、この COP ファイルを実行する必要がある場合があります。

表 4: 必須 COP ファイル

送信元	送信先	COP ファイル
Unified Communications Manager のアップグレード		
Unified CM 8.6 (x)、9.x	12.5(x)	必須 COP ファイル : <ul style="list-style-type: none"> • ciscocm.version3-keys.cop.sgn オプションの COP ファイル : <ul style="list-style-type: none"> • ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn • ciscocm.free_common_space_v<latest_version>.cop.sgn
統合 CM 10.5 (x)、 11.0 (x)	12.5(x)	直接更新アップグレード 必要な COP ファイル: ciscocm.enable-sha512sum-2021-signingkey-v1.0.cop.sgn。詳細については、COP ファイルを参照してください。

送信元	送信先	COP ファイル
Unified CM 11.5(x)	12.5(x)	<p>直接更新アップグレード;ディスク領域を増やすには、COP ファイルが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ciscocm.free_common_space_v<latest_version>.cop.sgn. COP ファイルと Readme ファイルをダウンロードするには、[https://software.cisco.com] に移動し、[Software Download (ソフトウェアのダウンロード)] を「ダウンロードとアップグレード (Download & Upgrade)」セクションからクリックし、Unified Communications > コール制御 > Cisco Unified Communications Manager (CallManager) > <バージョン>> の Unified Communications Manager/CallManager/Cisco Unity Connection ユーティリティ に移動します。 <p>必要な COP ファイル: ciscocm.enable-sha512sum-2021-signingkey-v1.0.cop.sgn。詳細については、COP ファイルを参照してください。</p>
Unified CM 12.0(1)	12.5(x)	<p>PCD の移行には、COP ファイルが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ciscocm-slm-migration.k3.cop.sgn <p>(注) この要件は、Unified Communications Manager (ビルド 12.0.1.10000-10) のリリース 12.0(1) から Prime Collaboration Deployment を移行する場合にのみ適用されます。Unified Communications Manager 12.0(1)SU1 などの上位リリースから移行する場合、COP ファイルをインストールする必要はありません。</p> <p>必要な COP ファイル: ciscocm.enable-sha512sum-2021-signingkey-v1.0.cop.sgn。詳細については、COP ファイルを参照してください。</p>
Unified CM 12.5 (x)	12.5 (年)	<p>直接標準アップグレード</p> <p>必要な COP ファイル: ciscocm.enable-sha512sum-2021-signingkey-v1.0.cop.sgn。詳細については、COP ファイルを参照してください。</p>
IM and Presence Service のアップグレード		
CUP 8.5(4) ～ 8.6(1)	12.5(x)	<p>必須 COP ファイル :</p> <ul style="list-style-type: none"> cisco.com.cup.refresh_upgrade_v<latest_version>.cop ciscocm.version3-keys.cop.sgn

送信元	送信先	COP ファイル
9.1(x)	12.5(x)	次の COP ファイルが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ciscocm.version3-keys.cop.sgn
10.5 (x)、 11. x、12.x	12.5(x)	COP ファイルは必要ありません。

要件および制約事項

ここでは、このリリースへのアップグレードの要件と制限事項について説明します。

ハードウェア要件

次のタイプ Unified Communications Manager の IM and Presence Service ハードウェアでホストされている仮想サーバをインストールできます。現在の展開でこれらのサーバのいずれかを使用していない場合は、サポートされているハードウェアプラットフォームに移行する必要があります。

- Cisco Business Edition 6000 または 7000 アプライアンス
- 仮想化された Cisco ハードウェア (Cisco UCS や Cisco HyperFlex など) は、VMware vSphere ESXi を使用しています。
- VMware vSphere ESXi を搭載した仮想化されたサードパーティ製ハードウェア

要件とサポートポリシーは、これらのオプションごとに異なります。アップグレードを開始する前に、現在のハードウェアが新しいリリースの要件を満たしていることを確認します。およびアプリケーションのリンクに https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/cisco-collaboration-virtualization.html 進んで、要件に関する詳細情報を確認できます。IM and Presence Service Unified Communications Manager

仮想マシンの構成

アップグレードまたは移行を開始する前に、現在の仮想マシン (VM) ソフトウェアが新しいリリースの要件を満たしていることを確認します。

表 5: 仮想マシンの要件

項目	説明
OVA テンプレート	<p>OVA ファイルには、仮想マシン設定用の一連の定義済みテンプレートが用意されています。サポートされているキャパシティレベル、必要な OS/VM/SAN の配置などの項目について説明します。Unified Communications ManagerおよびIM and Presence Serviceアプリケーション用に提供された OVA ファイルから VM 設定を使用する必要があります。</p> <p>OVA ファイルから使用する正しい VM 設定は、展開のサイズに基づいています。OVA ファイルの詳細については、https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/collaboration-virtualization-sizing.html の「Unified Communications 仮想化のサイジングに関するガイドライン」のトピックを検索してください。</p>
VMware vSphere ESXi	<p>リリースの互換性とサポート要件を満たす vSphere ESXi ハイパーバイザのバージョンをインストールする必要があります。</p> <p>Cisco Prime Collaboration Deployment (PCD) を使用してアップグレードまたは移行を実行する場合は、正しいライセンスタイプで vSphere ESXi がインストールされていることも確認する必要があります。PCD は、vSphere ESXi のすべてのライセンスタイプと互換性がありません。これらのライセンスの一部では、必要な VMware Api が有効になっていないためです。</p>
VMware vCenter	<p>VMware vCenter は、Business Edition 6000/7000 Unified Communications Manager アプライアンス IM and Presence Service、または UCS テスト済みリファレンス構成ハードウェアで UC 上に展開する場合はオプションです。</p> <p>VMware vCenter は、UC に UCS 仕様ベースおよびサードパーティ製のサーバ仕様ベースのハードウェアに導入する場合に必須です。</p>

項目	説明
VM 設定の仮想ハードウェア仕様	<p>またはUnified Communications ManagerIM and Presence Serviceの新しいリリースにアップグレードするために、VM の仮想ハードウェア仕様を変更する必要があるかどうかを確認します。たとえば、vCPU、vRAM、vNIC アダプタタイプ、およびvDisk サイズの要件、およびその他の仕様を確認します。</p> <p>VM に対するすべての変更は、OVA 設定と一致している必要があります。サポートされていない OVA 設定による VM の変更は許可されません。VM 要件の詳細については、リリースに対応する OVA テンプレートの Readme ファイルを参照してください。</p> <p>(注) 80GB OVA を使用して、Unified Communications Manager が、11.5 以降から 12.5 以降のバージョンにアップグレードされた場合、最大 98% の高いアクティブパーティションが想定されます。これは、HDD 90GB/110GB でシステムを再構築することで修正できます。デフォルトの 110GB OVA テンプレートを使用し、ノードを再構築します。または、現在の 80GB OVA では、クリーンインストールの前に、[VM]>[設定の編集 (Edit Settings)] に移動し、HDD サイズを 80GB から 90GB/110GB に増やします。その他のスペックはそのままです。すでにインストールされているシステムに HDD ディスクを追加すると、共通パーティションに追加の HDD スペースが加わるだけです。</p>

VMware のアップグレードに関する要件

アップグレードで VMware の更新が必要な場合は、に[仮想マシン設定タスク](#)進みます。

非推奨の電話のモデル

次の表に、このリリースのCisco Unified Communications Managerで廃止されたすべての電話機モデルと、電話モデルが最初に廃止されたUnifiedCMリリースを示します。たとえば、リリース 11.5 (1) で最初に廃止された電話機モデルは、すべてのリリース (12.x リリースを含む) では廃止されています。

これらの電話機モデルのいずれかを使用している場合、現在のリリースの Cisco Unified Communications Manager にアップグレードすると、その電話はアップグレード後に機能しなくなります。

表 6: このリリースで廃止された電話機モデル

このリリースで廃止された電話のモデル	最初は廃止予定
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified IP 電話 7970G • Cisco Unified IP 電話 7971G-GE • Cisco Unified ワイヤレス IP 電話 7921G 	12.0 (1) 以降のリリース
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco IP 電話 12 SP+ および関連モデル • Cisco IP 電話 30 VIP および関連モデル • Cisco Unified IP 電話 7902 • Cisco Unified IP 電話 7905 • Cisco Unified IP 電話 7910 • Cisco Unified IP 電話 7910SW • Cisco Unified IP 電話 7912 • Cisco Unified ワイヤレス IP 電話 7920 • Cisco Unified IP Conference Station 7935 	11.5 (1) 以降のリリース

詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/rel_notes/12_0_1/deprecated_phones/cucm_b_deprecated-phone-models-for-1201.html でフィールド通知『Cisco Unified Communications Manager Release 12.0(x) does not support some deprecated phone models』を参照してください。

非推奨の電話機を含むアップグレード

以前のリリースのこれらの電話機のいずれかを使用していて、このリリースにアップグレードする場合は、次の操作を実行します。

1. ネットワーク内の電話機がこのリリースでサポートされているかどうかを確認します。
2. サポートされていない電話機を確認します。
3. サポートされていない電話機の場合は、電話の電源を切り、ネットワークから電話を切断します。
4. この電話機のユーザに、サポートされる電話機をプロビジョニングします。移行 FX ツールを使用して、古いモデルから新しいモデルの電話機に移行することができます。詳細については、https://www.unifiedfx.com/products/unifiedfx-migrationfx#endpoint_refresh_tool を参照してください。
5. ネットワーク内のすべての電話機がこのリリースでサポートされたら、システムをアップグレードします。



- (注) 非推奨の電話機は、アップグレード後に削除することもできます。アップグレードの完了後に管理者が Unified Communications Manager にログインすると、システムから非推奨の電話機について管理者に通知する警告メッセージが表示されます。

ライセンスング

非推奨の電話機とサポートされている電話機を交換するために、新しいデバイスライセンスを購入する必要はありません。システムから廃止された電話機を削除するか、新しい Unified Communications Manager に切り替えて非推奨の電話機が登録できなくなると、新しい電話機のデバイスライセンスが使用可能になります。

ネットワーク要件

ここでは、を導入 Unified Communications Manager する前に、IM and Presence Service ネットワークが満たす必要がある要件を示します。

IP アドレス要件

多数のサービスを適切に動作させるために、コラボレーション ソリューション 全体は DNS に依存しているので、可用性の高い DNS 構成を適切な場所に配置する必要があります。基本的な IP テレフォニー展開で DNS を使用したくない場合は、Unified Communications Manager および IM and Presence Service を設定することで、ゲートウェイやエンドポイント デバイスとの通信にホスト名ではなく IP アドレスを使用できます。

静的 IP アドレッシングを使用するようにサーバを設定し、サーバが固定 IP アドレスを取得できるようにします。また、静的 IP アドレスを使用することで、Cisco Unified IP 電話をネットワークに接続したときにアプリケーションに登録できるようにもなります。

DNS の要件

次の要件に注意してください。

- 混合モードの DNS 導入はサポートされません。シスコでは混合モードの導入をサポートしていません。Unified Communications Manager と IM and Presence Service の両方で DNS を使用するか、使用しないかのいずれかにする必要があります。
- 展開で DNS Unified Communications Manager を IM and Presence Service 使用する場合は、同じ dns サーバを使用する必要があります。IM and Presence Service と Unified Communications Manager で異なる DNS サーバを使用すると、システムの動作に異常が発生する場合があります。
- 展開が DNS を使用していない場合は、次の [ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドを編集する必要があります。
 - [サーバ (Server)] : Cisco Unified CM Administration の [Server Configuration (サーバ設定)] ウィンドウで、クラスタ ノードの IP アドレスを設定します。

- IM and Presence UC Service : Cisco Unified CM Administration の **[UC サービスの設定 (UC Service Configuration)]** ウィンドウで、IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの IP アドレスを指している IM and Presence UC サービスを作成します。
- [CCMCIP プロファイル (COMCIP Profiles)] : Cisco Unified CM IM and Presence Administration の **[CCMCIP プロファイルの設定 (COMCIP Profile Configuration)]** ウィンドウで、いずれかの CCMCIP プロファイルでホストの IP アドレスを指定します。
- マルチノードの考慮事項 : IM and Presence Service でマルチノード機能を使用する場合は、DNS 設定オプションについて、『*Cisco Unified Communications Manager* での *IM* と *Presence* の設定と管理』のマルチノード展開に関する項を参照してください。

ファイアウォールの要件

ポート 22 への接続がオープンで、スロットリングされないようにファイアウォールを構成します。Unified Communications Manager および IM and Presence サブスクライバノードのインストール中は、Unified Communications Manager パブリッシャノードへの複数の接続が連続してすばやく開かれます。これらの接続をスロットリングすると、インストールが失敗する可能性があります。一般的なセキュリティの考慮事項については、[Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド](#)を参照してください。



-
- (注) これらのファイアウォール機能はアップグレードとインストールの失敗を引き起こす可能性があるため、アップグレードおよびインストール中は [侵入者/侵入検知 (Intruder/Intrusion Detection)] および/または [ブルートフォースアタック (Brut Force Attack)] 機能を無効にすることをお勧めします。
-

ポートの使用法の詳細については、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#) の「Cisco Unified Communications Manager TCP および UDP ポートの使用法」の章を参照してください。

SFTP サーバのサポート

以下の表示に記載されている情報を参考に、システムで使用する SFTP サーバソリューションを決定してください。

表 7: SFTP サーバ情報

SFTP サーバ	情報
Cisco Prime Collaboration Deployment の SFTP サーバ	このサーバはシスコが提供およびテストした SFTP サーバのみであり、Cisco TAC がサポートします。 バージョンの互換性は、使用している Unified Communications Manager および Cisco Prime Collaboration Deployment のバージョンに依存します。バージョン (SFTP) または Unified Communications Manager をアップグレードする前に、『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』を参照して、互換性のあるバージョンであることを確認してください。
テクノロジーパートナーの SFTP サーバ	これらのサーバはサードパーティが提供およびテストしたものです。バージョンの互換性は、サードパーティによるテストに依存します。テクノロジーパートナーの SFTP サーバまたは Unified Communications Manager をアップグレードする場合、テクノロジーパートナーのページで、互換性のあるバージョンを確認してください。 https://marketplace.cisco.com
他のサードパーティの SFTP サーバ	これらのサーバはサードパーティが提供するものであり、Cisco TAC はこれらのサーバを正式にサポートしていません。 バージョンの互換性は、SFTP バージョンと Unified Communications Manager バージョンの互換性を確立するためのベストエフォートに基づきます。 (注) これらの製品がシスコでテストされていない場合、シスコはその機能を保証することができません。Cisco TAC は、これらの製品をサポートしていません。完全にテストされてサポートされる SFTP ソリューションとしては、Cisco Prime Collaboration Deployment またはテクノロジーパートナーの SFTP サーバを利用してください。

サブネットの制限

多数のデバイスを含む大規模な Class A または Class B サブネットに Unified Communications Manager をインストールしないでください。詳細については、[Cisco Collaboration System 12.x Solution Reference Network Designs \(SRND\)](#)を参照してください。

クラスタ サイズ

クラスタ内の Unified Communications Manager サブスクリバ ノードの数は、4 個のサブスクリバ ノードと 4 個のスタンバイ ノードの合計 8 個を超えることはできません。Unified Communications Manager パブリッシャ ノード、TFTP サーバ、メディア サーバなどのクラスタ内のサーバ ノードの合計数は、21 個を超えることはできません。

クラスタ内の IM and Presence Service ノードの最大数は 6 個です。

詳細については、次の場所にある『Cisco Collaboration Solutions 設計ガイダンス』を参照してください。<http://www.cisco.com/go/ucsrnd>

IPサブネットマスク

24ビットの IP サブネットマスクを使用している場合は、255.255.255.0 という形式を使用してください。255.255.255.000 の形式は使用しないでください。255.255.255.000 は有効な形式ですが、アップグレードプロセス中に問題が発生する可能性があります。問題を回避するには、アップグレードを開始する前にフォーマットを変更することを推奨します。サブネットマスクを変更するには、`set network ip eth0 <server_IP_address> 255.255.255.0` コマンドを実行します。

サブネットマスクでは他の形式がサポートされており、この制限は 24 ビットのサブネットマスクのみに適用されます。

ソフトウェア要件

この項では、Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service のアップグレードと移行に関するソフトウェア要件を説明します。

Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名

Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名が 15 文字以内であることを確認します。Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名が 15 文字より多い場合、アップグレード時にデバイスが移行されません。

Export Restricted および Export Unrestricted ソフトウェア

このリリースの Unified Communications Manager と IM and Presence Service は、Export Restricted (K9) バージョンに加えて、Export Unrestricted (XU) バージョンもサポートしています。



- (注) 無制限 (Unrestricted) バージョンのソフトウェアは、さまざまなセキュリティ機能を必要としない特定の顧客のみを対象としています。無制限バージョンは一般的な展開用ではありません。

Export Unrestricted バージョンは、次の点で制限 (restricted) バージョンと異なります。

- ユーザ ペイロード (情報交換) の暗号化はサポートされません。

- Microsoft OCS/Lync または AOL との外部 SIP ドメイン間フェデレーションはサポートされません。
- 無制限バージョンのリリースをインストールすると、制限バージョンにアップグレードできなくなります。無制限バージョンを含むシステムでの制限バージョンの更新インストールもサポートされません。
- 単一クラスタ内のすべてのノードを同じモードにする必要があります。たとえば、同じクラスタ内の Unified Communications Manager と IM and Presence Service ノードは、すべてが無制限モードまたは制限モードでなければなりません。
- IP フォンのセキュリティ設定が変更され、シグナリングおよびメディアの暗号化（VPN Phone 機能で提供される暗号化を含む）が無効になります。



- (注) 無制限バージョンのリリースをインストールすると、制限バージョンにアップグレードできなくなるので注意してください。無制限バージョンを含むシステムでは、制限バージョンの更新インストールを実行できません。

すべてのグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) とコマンドライン インターフェイス (CLI) で、管理者は製品バージョン (restricted または export unrestricted) を表示できます。

次の表は、Unified Communications Manager の無制限バージョンと IM and Presence Service では使用できない GUI 項目を示しています。

GUI の項目	場所	説明
Cisco Unified CM Administration		
VPN の設定	[拡張機能 (Advanced Features)] > [VPN]	このメニューとオプションはありません。
電話セキュリティ プロファイルの設定	[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [電話セキュリティ プロファイル (Phone Security Profile)]	[デバイス セキュリティ モード (Device Security Mode)] は、[非セキュア (Non Secure)] に設定されており、設定はできません。
Cisco Unified CM IM and Presence Administration		

GUI の項目	場所	説明
セキュリティ設定	[システム (System)]>[セキュリティ (Security)]>[設定 (Settings)]	<ul style="list-style-type: none"> • [XMPP クライアントと IM/P サービス間のセキュアモードの有効化 (Enable XMPP Client To IM/P Service Secure Mode)] 設定はオンにできません。 • [XMPP ルータツールータセキュアモードの有効化 (Enable XMPP Router-to-Router Secure Mode)] 設定はオンにできません。 • [Web クライアントと IM/P サービス間のセキュアモードの有効化 (Enable Web Client to IM/P Service Secure Mode)] 設定はオンにできません。 • [SIP クラスタ間プロキシツープロキシ転送プロトコル (SIP intra-cluster Proxy-to-Proxy Transport Protocol)] を TLS に設定するオプションは削除されました。
Cisco SIP Proxy サービスのための [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)]	[システム (System)]>[サービスパラメータ (Service Parameters)] から [サービス (Service)] として、[Cisco SIP プロキシ (Cisco SIP Proxy)] を選択します。	<ul style="list-style-type: none"> • [Transport Preferred Order] パラメータの TLS オプションはすべて削除されました。 • TLS オプションは、[SIP ルートヘッダーtransportタイプ (SIP Route Header Transport Type)] パラメータから削除されました。

GUI の項目	場所	説明
SIP フェデレーテッド ドメイン	[プレゼンス (Presence)]> ドメイン間フェデレーション (Interdomain Federation)]> [SIPフェデレーション (SIP Federation)]	OCS/Lync とのドメイン間フェデレーションを設定するとポップアップが表示され、エンタープライズ内の別の OCS/Lync とのみ直接フェデレーションを行うことができるとの警告が出されます。エンタープライズ外の OCS/Lync とのドメイン間フェデレーションは、無制限モードではサポートされません。
XMPP フェデレーション設定	[プレゼンス (Presence)]> [ドメイン間フェデレーション (Interdomain Federation)]> [XMPPフェデレーション (XMPP Federation)]> [設定 (Settings)]	セキュリティモードを構成できません。TLS なしに設定されています。
プロキシの構成設定	[プレゼンス (Presence)]> [ルーティング (Routing)]> [設定 (Settings)]	優先プロキシリスナーとして TLS または HTTPS リスナーを設定できません。

Unified CM 9.x からのアップグレード

バージョン 9.x の次の名前のあるいずれかを持つ SIP プロファイルがある場合、Unified Communications Manager バージョン 9.x からバージョン 10.x 以降へのアップグレードは失敗します。

- Standard SIP Profile
- Standard SIP Profile For Cisco VCS
- Standard SIP Profile For TelePresence Conferencing
- Standard SIP Profile For TelePresence Endpoint
- Standard SIP Profile for Mobile Device

これらの名前のいずれかを持つ SIP プロファイルがある場合は、アップグレードを続行する前に名前を変更または削除する必要があります。

CLI によって開始される IM and Presence のアップグレードに必要な OS 管理者アカウント

`utils system upgrade` CLI コマンドを使用して、IM and Presence Service ノードをアップグレードする場合は、管理者権限を持つユーザではなく、デフォルト OS 管理者アカウントを使用する必要があります。デフォルト OS 管理者アカウントを使用しないと、必須のサービスをインス

トールするためにアップグレードに必要な特権レベルがなくなり、アップグレードが失敗する可能性があります。**show myself CLI** コマンドを実行すると、アカウントの特権レベルを確認できます。アカウントには特権レベル 4 が必要です。

この制限は、IM and Presence Service の CLI によって開始されるアップグレードにのみ適用され、Unified Communications Manager には適用されないことに注意してください。また、この制限は、新しい ISO ファイルでは修正される可能性があることに注意してください。特定の ISO ファイルの詳細については、ISO Readme ファイルを参照してください。この制限に関する最新情報については、[CSCvb14399](#) を参照してください。

プッシュ通知が有効な 11.5(1)SU2 からのアップグレード

11.5(1)SU2 リリースからアップグレードしていて、旧リリースでプッシュ通知が有効になっていた場合は、現在のリリースでプッシュ通知を無効にしてから、オンボーディングプロセスに従ってプッシュ通知を再度有効にする必要があります。この作業は、11.5(1)SU2 リリースの一部ではなかった、このリリースでの API 変更のために必要です。プッシュ通知を無効にしてから、このリリースのオンボーディングプロセスに従わないと、アップグレードしたシステムはトラブルシューティング ログをシスコ クラウドに送信できません。

システムをアップグレードした後、次の操作を行います。

手順

ステップ 1 プッシュ通知を無効化する

次の手順に従ってください。

1. [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[高度な機能 (Advanced Features)] > [Cisco Cloud オンボーディング (Cisco Cloud Onboarding)]。
2. 次のチェックボックスをオフにします。
 - プッシュ通知を有効化する
 - シスコクラウドにトラブルシューティング情報を送信する (Send Troubleshooting information to the Cisco Cloud)
 - トラブルシューティングのために暗号化された PII をシスコクラウドに送信する
3. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 2 Unified Communications Manager 製品インスタンスを Smart Licensing システムに追加します。

の「スマートソフトウェアライセンス」の章 [Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#) を参照してください。

ステップ 3 このリリースのプッシュ通知を有効にする。

完全なオンボーディングプロセスについては、[Cisco Unified Communications Manager システム 設定ガイド](#)の「Configure Push Notifications for Cisco Jabber on iPhone and iPad」の章を参照してください。

Microsoft SQL Server を使用したアップグレードに必要なデータベース移行

Microsoft SQL Server を IM and Presence Service の外部データベースとして展開していて、11.5(1)、11.5(1)SU1、または 11.5(1)SU2 からアップグレードする場合は、新しい SQL Server データベースを作成し、その新しいデータベースに移行する必要があります。この作業は、このリリースで強化されたデータタイプのサポートのために必要です。データベースを移行しないと、既存の SQL Server データベースでスキーマの検証に失敗し、持続チャットなどの外部データベースに依存するサービスが開始されません。

IM and Presence サービスをアップグレードした後、この手順を使用して、新しい SQL Server データベースを作成し、新しいデータベースにデータを移行します。



(注) この移行は、Oracle または PostgreSQL の外部データベースでは必要ありません。

はじめる前に

データベースの移行は、MSSQL_migrate_script.sql スクリプトに依存します。コピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。

表 8:

手順	タスク
ステップ 1	外部 Microsoft SQL Server データベースのスナップショットを作成します。
ステップ 2	<p>新しい（空の）SQL Server データベースを作成します。詳細については、『<i>Database Setup Guide for the IM and Presence Service</i>』の次の章を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「Microsoft SQL Installation and Setup」：アップグレードされた IM と Presence サービスで新しい SQL Server データベースを作成する方法の詳細については、この章を参照してください。 「IM and Presence Service External Database Setup」：新しいデータベースを作成した後、この章を参照して、IM and Presence サービスにデータベースを外部データベースとして追加します。

手順	タスク
ステップ 3	<p>システムトラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)] を選択します。 2. [外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter)] セクションにエラーが表示されていないことを確認します。
ステップ 4	<p>すべての IM and Presence Service のクラスタ ノード上で Cisco XCP ルータを再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。 2. [サーバ (Server)] メニューから、IM and Presence Service ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 3. IM and Presence Services の下で、Cisco XCP Router を選択して、再起動 をクリックします。
ステップ 5	<p>外部データベースに依存するサービスをオフにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。 2. [サーバ (Server)] メニューから、IM and Presence ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 3. [IM and Presence Services] の下で、次のサービスを選択します。 Cisco XCP Text Conference Manager Cisco XCP File Transfer Manager Cisco XCP Message Archiver 4. [停止 (Stop)] をクリックします。
ステップ 6	<p>次のスクリプトを実行して、古いデータベースから新しいデータベースにデータを移行します。MSSQL_migrate_script.sql</p> <p>(注) このスクリプトのコピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。</p>

手順	タスク
ステップ 7	<p>システムトラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)] を選択します。 2. [外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter)] セクションにエラーが表示されていないことを確認します。
ステップ 8	<p>以前に停止したサービスを開始します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。 2. [サーバ (Server)] メニューから、IM and Presence ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 3. [IM and Presence Services] の下で、次のサービスを選択します。 Cisco XCP Text Conference Manager Cisco XCP File Transfer Manager Cisco XCP Message Archiver 4. [開始 (Start)] をクリックします。
ステップ 9	<p>外部データベースが稼働していることと、すべてのチャットルームが Cisco Jabber クライアントから認識可能であることを確認します。新しいデータベースが動作していることが確かな場合にのみ、古いデータベースを削除してください。</p>

12.0 (1) から 12.5 (1) へのアップグレードのアップグレードに関する考慮事項

ここでは、12.0(1) から 12.5(1) へのアップグレード時にシステムが満たす必要のある要件と、IM and Presence Service のインストールまたはアップグレード時に適用される制限事項について説明します。



- (注) [アップグレード後に再起動しない (Do not reboot after upgrade)] として、デフォルトのリポートオプションの代わりに [再起動する再起動] オプション (スイッチバージョン「Yes」) を選択してください (スイッチバージョンは「No」)。このため、IM and Presence 12.5 は、Unified Communications Manager 12.5 のバージョンと互換性があります。

Unified Communications Manager 12.0.1 からアップグレードを更新します。12.5 または Unified Communications Manager の以前のリリースから 12.5 リリースにアップグレードする場合は、次の手順を実行します。



- (注) アップグレードする前に、アップグレード前のアップグレード準備状況 COP ファイルを実行します。COP ファイルは一連のテストを実行して、システムのアップグレード前の健全性と接続を確認します。COP ファイルに対処する必要がある問題が強調表示されている場合は、アップグレードを進める前に修正してください。

IPSec の要件

証明書ベースの認証を使用して IPSec が設定されている場合は、IPsec ポリシーが CA 署名付き証明書を使用していることを確認してください。自己署名証明書で証明書ベースの認証を使用するように設定された IPsec を使用して Unified Communications Manager をアップグレードしようとする、アップグレードは失敗します。CA 署名付き証明書を使用するには、IPsec ポリシーを再設定する必要があります。

クラスタ間ピアのサポート

IM and Presence Service は、異なるソフトウェアバージョンを実行しているクラスタに対してクラスタ間ピアをサポートします。サポートされているドメイン間フェデレーションを検索するには、『[Compatibility Matrix for Cisco Unified Communications Manager AND IM And プレゼンスサービス](#)』の「サポートされている統合」の章を参照してください。

アップグレード中の Spectre と Meltdown の脆弱性

このリリースの Unified Communications Manager、Cisco IM and Presence Service、Cisco Emergency Responder および Cisco Prime Collaboration の導入には、Meltdown および Spectre のマイクロプロセッサの脆弱性に対処するためのソフトウェアパッチが含まれています。

リリース 12.5(1) 以降にアップグレードする前に、Cisco Collaboration Sizing Tool を使用して、現在の展開をアップグレード済みの展開と比較するように、チャネルパートナーまたはアカウントチームと連携させることをお勧めします。必要に応じて、VM リソースを変更して、アップグレードされた導入環境で最適なパフォーマンスが得られるようにします。

ライセンス要件

ここでは、Unified Communications Manager のライセンス要件について説明します。IM and Presence Service



- (注) Unified Communications Manager リリース 12.0(1) では、Prime License Manager の代わりにスマート ライセンシングが使用されるようになりました。スマート ライセンシングでは、Unified Communications Manager サーバをアップグレードまたは移行する前に、スマートアカウントを作成して設定する必要があります。

Unified Communications Manager から Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに接続するには、次の展開オプションを使用できます。

- 直接 : Unified Communications Manager が使用情報をインターネットから直接送信します。追加のコンポーネントは不要です。
- Cisco Smart Software Manager サテライト : Unified Communications Manager が使用情報をオンプレミスの Smart Software Manager に送信します。データベースの同期を保つため、定期的に情報の交換が実行されます。Smart Software Manager サテライトのインストールや設定の詳細については、次の URL <https://www.cisco.com/c/en/us/buy/smart-accounts/software-manager.html> を参照してください。



- (注) Cisco Smart Software Manager サテライトは、スタンドアロンの Prime License Manager に類似したオンプレミス コレクタです。

- プロキシサーバ : Unified Communications Manager がプロキシサーバを使用し、インターネット経由で使用情報を送信します。

Unified Communications Manager のライセンス要件

シスコスマートソフトウェアライセンスは、ライセンスに関する新しい考え方を提供しています。ライセンスの柔軟性が増し、企業全体のライセンスがシンプルになります。また、ライセンスの所有権および消費が可視化されます。

Ciscoスマートソフトウェアライセンスを使用すると、デバイスが自己登録し、ライセンス消費を報告し、製品アクティベーションキー (PAK) が必要なくなり、ライセンスの調達、展開、管理が簡単にできるようになります。ライセンス資格を単一のアカウントにプールして、必要に応じてネットワーク経由でライセンスを自由に移動することができます。Cisco製品全体で有効化され、直接クラウドベースまたは間接導入モデルによって管理されます。

Ciscoスマートソフトウェアライセンスサービスでは、製品インスタンスを登録し、ライセンスの使用状況を報告し、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから必要な認証を取得します。

Cisco Unified Communications Manager リリース 12.0(1) 以降のバージョンでは、Prime License Manager が Smart Software Manager に置き換わりました。Cisco Prime License Manager はリリース 12.0(1) 以降では使用されなくなり、[インストール済みアプリケーション (Installed Applications)] ログイン前画面には表示されません。

アップグレード前に混合モードを有効にしている、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録していない場合は、

- 警告メッセージが、[Cisco Unified CMの管理 (Cisco Unified CM Administration)] ページおよび [Cisco Unified OSの管理 (Cisco Unified OS Administration)] ページに次のように表示されます。



注意 システムは現在、混合モードで実行しています。(The system is currently running Mixed mode.) 混合モードの実行を続けるには、登録トークンを使用してSmart Licensing登録を完了してください。登録トークンはスマート/仮想アカウントから取得するもので、輸出規制機能の許可がオンになっています。(To continue running Mixed mode, please ensure Smart Licensing registration is completed using the Registration Token received from the Smart/Virtual Account that has Allow export-controlled functionality checked.)

- Unified Communications Manager が登録トークンを使用して登録されていない場合、*SmartLicenseExportControlNotAllowed* という名前のアラートが送信されます。

シスコ スマート ソフトウェア ライセンシングの設定方法の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)』の「システムの初期パラメータを設定」に含まれている「スマート ソフトウェア ライセンシング」の章を参照してください。

『*Smart Software Manager satellite Installation Guide*』を含む、Cisco Smart Software Manager サテライトのインストールガイドの詳細については、<http://www.cisco.com/go/smartsatellite> を参照してください。

PLM ライセンスの Smart Entitlement への移行

製品の Smart Licensing のバージョンにアップグレードする資格がある場合は、[ライセンス登録ポータル](#)または [Cisco Smart Software Manager](#) を使用して移行を開始できます。このプロセスを自己開始するには、ソフトウェアの Smart Licensing バージョンをダウンロードしてインストールし、登録トークンを使用してデバイスをスマートアカウントに登録します。シスコによって追跡された権限の移行は、自動的に顧客のスマートアカウントに移行されます。また、未使用の従来の PAK をスマートアカウントに移行して、後でスマートモードの製品で使用することもできます。このプロセスは、[ライセンス登録ポータル](#)または [Cisco Smart Software Manager](#) から利用できます。

Unified Communications Manager 9.0x 以降のバージョンの 12.0(1)

- アクティブな Cisco Software Support サービス (SWSS) 契約を保有している場合は、次の URL で、Cisco Smart Software Manager を使用して、従来のライセンスを Smart Entitlement に変換できます。<https://software.cisco.com/#SmartLicensing-LicenseConversion>
- 次の 2 種類の移行がサポートされています。
 - PAK ベース：すでに履行された PAK、部分的に履行された PAK、および履行されていない PAK でサポートされます。

- デバイス ベース
- 部分変換では、古いクラスタと Unified Communications Manager 12.0(1) のクラスタの混合環境がサポートされます。

Smart Entitlement へのアップグレード

Unified Communications Manager 9.0x より前（デバイス ベース）～ 12.0(1)

デバイスベースのライセンスを Smart Entitlement に移行する場合のサポートについては、Cisco Global Licensing Operations（GLO）にお問い合わせください。

顧客は、License Count Utility（LCU）を実行することによって必要な同等のユーザベースのライセンスを確立できます。詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/upgrade/uct/CUCM_BK_UCT_Admin_Guide/CUCM_BK_UCT_Admin_Guide_chapter_01.html を参照してください。

LCU のレポートから、顧客は Cisco Commerce Workspace を通じてそれぞれの数量のアップグレードライセンスを発注できます。これを超えると、新しいライセンスを追加購入する必要があります。詳細については、

<http://www.cisco.com/c/en/us/partners/tools/collaboration-ordering-guides.html> で『Ordering Guide』を参照してください。

特定ライセンス予約

特定のライセンス予約（SLR）を使用すると、お客様が仮想アカウントからライセンスを予約し、それらのライセンスをデバイス UDI に関連付け、それらの予約済みライセンスを使用してデバイスを切断モードで使用することができます。この場合、仮想アカウントから UDI の特定のライセンスと数量を予約します。以下のオプションは、特定予約向けの新機能および設計要素の説明です。

表 9: 特定のライセンス予約コマンド

コマンド	説明
ライセンスのスマート予約の有効化	ライセンス予約機能を有効にするには、このコマンドを使用します。
ライセンスのスマート予約の無効化	ライセンス予約機能を無効にするには、このコマンドを使用します。
ライセンスのスマート予約要求	予約要求コードを生成するには、このコマンドを使用します。
許可証のスマート予約のキャンセル	承認コードがインストールされる前に予約プロセスをキャンセルするには、このコマンドを使用します。

コマンド	説明
ライセンススマート予約インストール "<認証-コード>"	Cisco Smart Software Manager で生成されたライセンス予約承認コードをインストールするには、このコマンドを使用します。
スマート許可証予約に戻ります。	このコマンドを使用して、インストールされているライセンス予約承認コードと予約済み権限のリストを削除します。デバイスは未登録の状態に移行します。
license smart reservation return-authorization "<承認コード>"	ユーザが入力したライセンス予約の承認コードを削除するには、このコマンドを使用します。



- (注) 12.0から上位バージョンにアップグレードし、アップグレードされたサーバでライセンス予約機能を有効にする場合は、予約機能を有効にする前に、CCO からciscocm-ucm-resetudiをダウンロードし、アップグレードした CUCM にインストールする必要があります。



- (注) ライセンス予約が有効になっている 12.5 システムを 14 にアップグレードする場合は、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)を参照してください。

IM and Presence サービス ライセンスの要件

IM and Presence Service には、サーバー ライセンスやソフトウェア バージョン ライセンスは必要ありません。ただし、ユーザーを割り当て、その割り当てたユーザごとに IM and Presence Service を有効にする必要があります。



- (注) Jabber for Everyone オファァーを使用している場合、IM and Presence サービス機能を有効にするためのエンドユーザー ライセンスは不要です。詳細については、『*Jabber for Everyone クイック スタート ガイド*』を参照してください。

IM and Presence Service は、各ユーザに関連付けられているクライアントの数に関係なく、ユーザ単位で割り当てることができます。IM and Presence Service をユーザに割り当てると、ユーザが IM とアベイラビリティの更新を送受信できるようになります。IM and Presence Service が有効になっていないユーザは、IM and Presence Service サーバにログインして他のユーザのアベイラビリティを確認したり、IM を送受信したりすることはできません。また、そのユーザのアベイラビリティ ステータスを他のユーザが確認することもできません。

次のいずれかのオプションを使用して、IM and Presence Service のユーザを有効にすることができます。

- Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ。詳細については、[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)を参照してください。
- 一括管理ツール (BAT)
- Unified Communications Manager の [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] ウィンドウから参照できる機能グループ テンプレートに IM and Presence Service を割り当てる。

詳細については、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)を参照してください。

IM and Presence Service 機能は、User Connect Licensing (UCL) と Cisco Unified Workspace Licensing (CUWL) の両方に含まれています。また、Unified Communications Manager IP テレフォニーユーザでないユーザに対しても、Jabber for Everyone オファアを通じて IM and Presence Service 機能を入手できます。詳細については、『*Jabber for Everyone* クイック スタート ガイド』を参照してください。

サポート文書

次のドキュメントには、特定のケースでのアップグレードに役立つ追加のサポート情報が記載されています。

タスク	
仮想化された Cisco ハードウェアをセットアップします。	仮想化プラットフォームを設定するには、「仮想サーバでのシスココラボレーション」を参照してください。詳細については、 https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-guides-list.html を参照してください。
Cisco Business Edition 6000/7000 アプライアンスのセットアップ	参照先 <ul style="list-style-type: none"> • <i>Cisco Business Edition 6000</i> のインストールガイド:https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-6000/tsd-products-support-series-home.html • 『<i>Cisco Business Edition 7000</i> インストール ガイド』 : https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/tsd-products-support-series-home.html

タスク	
設定を保持しながら既存のハードウェアを交換する	『Cisco Unified Communications Manager 単一サーバまたはクラスタの置換』： https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-guides-list.html
VMware の要件を確認する	<p>VMware の要件とベストプラクティスについて https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/cisco-collaboration-virtualization.html は、を参照してください。</p> <p>VMware ベンダーのマニュアルについて http://www.VMware.com は、を参照してください。</p>
追加の計画およびサイジングのリソース	<p>これらのドキュメントには、アップグレードされたシステムの計画とサイジングに役立つ情報も記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『シスコ コラボレーション システム ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン (SRND) 』： http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-system/products-implementation-design-guides-list.html • シスコの推奨アーキテクチャガイドおよびシスコ検証済み設計ガイド http://www.cisco.com/c/en/us/solutions/enterprise/design-zone-collaboration/index.html • コラボレーション仮想マシンの交換ツール http://ucs.cloudapps.cisco.com/ • Cisco Quote Collab Tool http://www.cisco.com/go/quotecollab • Cisco Collaboration Sizing Tool http://tools.cisco.com/cucst

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。